

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196700181		
法人名	三村電機 株式会社		
事業所名	グループホーム えがおの家		
所在地	天塩郡天塩町字川口5692-1		
自己評価作成日	令和3年11月16日	評価結果市町村受理日	令和3年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新規開設時はもともと町内にあった特別養護老人ホームと混同されがちでしたが、開設から3年経ち、特別養護老人ホームとは別な介護施設だということが、段々と認知されてきていると感じています。
 少人数ならではの特徴を生かし、入居されている方たちには、「変化に気付ける力」を実践し、心地の良いGH生活を送ってもらい、地域の人に対しては、介護で困ったときの拠り所に慣れる場所を目指していきたいと職員一同思っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0196700181-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天塩町で唯一のグループホームえがおの家は平成30年国保病院に近接した地区に開設され、行政とはケア会議の中や疑問を解決すべく連絡を密にし協力関係を築いています。開設時に管理者、職員で目指すべき方向を話し合い、住み慣れた地域で、自分らしい生活が出来るグループホームの理念を3項目策定しました。「愛、～家の中に心がある～」待つ・見守る・優しいえがお」「より良いケア 癒しのケア」を玄関ロビーに掲示して職員の出勤時等で常に目に入り意識し実践できるように取り組んでいます。職員は利用者の思いや希望を把握し、楽しい生活が出来るように支援しています。外出機会が少なくなった現在は、リビングで談笑したりゲームで身体を動かすようにしています。また、犬や猫の動物と一緒に生活しており楽しく、穏やかな生活を送っています。利用者の生活歴や情報は家族や病院、地域のケアマネから得て全職員で情報を共有し同じ介護になるように支援しています。現在開設3年が経過したところであり一つひとつ作り上げており、更に職員の教育にも力を入れ、オンライン研修システムを導入し時間を気にせず取り組めるようになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛 愛の中に心がある」基本理念に「待つ、見守る、やさしい笑顔」を職員全員で共有し、画一的な介護ではなく、個人個人の持つ能力を活かしたケアを実践している。	開設時に管理者、職員で話し合い決めた理念を玄関ロビーに掲示しており、職員は通るたびに目につき意識出来るようになっていました。また、重要事項説明書に記載しており契約時には利用者、家族に説明して理解を得ています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、昨年度は総会などにも参加し、GHの周知を行っていたが、今年度は感染症の影響もあり、あまり実施できていない状況。	町内会に加入しており以前は女性たちによる訪問があり、見守りやウエス作成のボランティア協力があり日常的に交流を行っていましたが、現在町内会活動は休止しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の影響で、人が集まる場での認知症についての発信は出来ていないが、入居の相談等で訪問していただいた方については、GH以外の対応の助言も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は感染症の影響により、ほぼ書面報告のみの運営推進会議となっています。書面報告時にアンケート(記述式)を同封したが、意見として提出されたものはなく、アンケートの方式に課題があったと感じている。	運営推進会議は現在は書面開催となっており、利用者代表、家族代表、町内会役員、民生委員、町担当者へ書類を郵送し知らせています。同時に、質問や意見を求める封書を同封しています。	定期的な開催や年6回の開催実施が望まれます。また、利用者家族、職員との情報共有を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の役場職員の密に連絡を取りあい、入居状況や情報共有を行っている。	町担当者とは介護保険法の解釈や運営基準についての疑問の指導、助言を日常的に得ています。また、管理者は、情報交換できるよう電話や訪問して協力関係を構築しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は未実施、過去にも実施事例はない。 ユニット会議毎に身体拘束廃止委員会を行い、身体拘束についての話し合いを行っている。	身体拘束廃止に向けては毎月開催の各ユニット会議の中で、廃止委員会を開催しており職員全員が委員となり、介護における身体拘束の確認を行っています。また、オンライン研修を導入し職員研修を行って身体拘束をしない介護に取り組んでいます。	年2回の研修実施と検討会議への全員の出席及びその確認が求められます。また、検討会議では不適切な言動等の検討を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンライン動画研修のシステムを導入し、研修内容に組み込んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン動画研修のシステムを導入し、研修内容に組み込んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をかけて説明を行っている。契約後にも疑問等があれば時間を設けて、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での問い合わせがあった際に、職員から何か意見等はあるか、積極的に声掛けを行うように周知している。 また、外部機関へ表す方法として担当部署を重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時に把握し、運営、介護に反映するように努めています。面会を制限していましたが、別室や事務室で面会出来るように努めており、管理者は適宜、利用者家族に日常の様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議時に職員からの意見を聴く機会を設けている。	職員の意見や提案は管理者が業務や毎月の会議の中で把握し反映するように努めています。職員教育の為のオンライン研修システムを導入しており教育に力を入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の要望や家庭環境を考慮し、シフトを製作するなど、職員が働きやすいよう努めている。 また、昇給の仕組みを再考し、努力が昇給に繋がるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得や研修への参加を推奨し、本人の希望の研修などに参加できるようにシフト調整を行い、個人の向上心を阻害しないように努めている。 また、全員がまんべんなく研修を受けられるよう、オンライン動画研修システムを導入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症の影響で、交流する機会などは設けることが出来てはいるが、感染症などの対応について、情報交換をしたりし、相互的にサービスの向上が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族やご本人と面談し、入居後の希望や不安を聞き取るようにしている。 入居後も管理者を中心に生活に慣れるまで支援を行い、希望があれば家族との面談も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族やご本人と面談し、入居後の希望や不安を聞き取るようにしている。 入居後も、家族からの要望にはなるべく応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や、居宅のケアマネジャーから情報提供を受け、入居前に入居予定のユニット職員とカンファレンスを行い、サービス開始時のケア方針を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることを探りながら生活に参加していただけるように実践している。ただ、シフトによっては希望に添えない時もあり、今後の課題としている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や他の用事で電話した際に、口頭にて出来るだけ本人の様子を伝えるようにしている。また、他町村への病院受診時には付き添いをお願いしたり、身の回りのもの準備は家族にお願いするなど、出来るだけご家族も本人の生活に関わっていただけるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の影響で、面会や外出の希望になかなか沿うことが出来ていなかったが、感染症の状況を見ながら、家族の支援のもと、友人宅へ出かけることに対応している。	知人、友人との面会は限られてますが、状況を見て対応しています。友人と外食へ出かけたり、美容室、理容店への訪問があり馴染みの関係継続が出来るように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないように出来るだけ共有スペースに集まれるようにおやつや水分補給の時間に声掛けをして居室から出る機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に町内で会った場合など積極的に声を掛けさせていただき、近況を聴いたり、何かあった場合には相談を受ける旨を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に面談を行い、その場でご本人やご家族に生活の意向を聞き取るようにしている。その情報をユニット職員と共有し、それに沿った生活が出来るよう支援している。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は毎日の生活の中で把握しています。朝食後に部屋で寛いでいる時に談笑することがあり話を伺いながら希望が、実現出来るように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行い、その場でご本人やご家族に生活の意向を聞き取るようにし、その情報をもとに実際に行っていた生活サイクルを実践できるように支援している。また、居室に備え付けの物は置かずに、出来るだけ本人が使用していた家具などを持ち込んでもらい、自宅のイメージを持って生活できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に行ったアセスメントをベースに各個人の情報を各職員で共有できるようにしている。また、日々の生活の中で何かすぐに変更しなければいけない事柄があった場合は基本的には管理者が情報を発信し共有する。急ではない限りは基本的にユニット会議で検討し変更する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前のアセスメント後にその情報をもとに会議を行いケアプランの作成への意見を出し合っている。入居後は計画作成担当者を中心にモニタリング、アセスメントを行いその後ケアカンファレンスを行いケアプランの作成を行っている。	介護計画は基本的には短期目標期間は6か月、長期目標期間は1年に設定しています。毎月のユニット会議の中で全員で、気になる事を話し合いプランに活かしています。介護記録はタブレットを取り入れており、簡単に入力、閲覧することが出来情報を共有しています。	介護記録はタブレット利用で作成していますが、日常の様子、介護状況の様子の記載の充実を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレットを使用して記録している。記録のデータ化により記録の振り返りが簡単にできるので、それをもとに情報を共有し、なにか変化があればそれに沿ったケアの実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の外出や買い物、馴染みの理美容室の利用支援、家族希望の外出、外泊などにも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会などの地域資源との活動に関しては、感染症の影響で今年度はほぼ協働はなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力病院である町立病院の医師がかかりつけ医とさせていただいているが、入居前に受診していた病院など本人や家族の希望があればその病院受診の継続にも対応している。	利用者の殆どが町立国保病院をかかりつけ医とし、遠方の専門医への受診は家族が対応し情報を共有しています。医療機関と連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員としての看護師の配置はしていない。しかし、町立病院と連携し、何かあった場合にはすぐに相談、対応できる体制は出来ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	もともと入居前に町立病院がかかりつけの病院である方がほとんどであるため詳細な情報のやり取りは必須ではないが、入居後の生活の様子や入居前から見て変化のあったことや、もともとかかりつけの病院が違う方の事については情報提供シートを作成し、スムーズに情報のやり取りが出来るようにしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師の配置がない現在は終末期の対応はしていない旨を契約時に説明を行っている。ただ、今後の検討事項としている。	重度化した場合における対応及び終末期ケアに係る指針により、現在、看取りに関して事業所が出来る事を説明し、受けた旨の同意書を得て、利用者や家族の思いに沿えるよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院の助言をもらい、急変時マニュアルを作成しそれに沿った対応をしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、職員に周知している。また、感染症の影響で消防職員の指導は受けられていないが、施設内での訓練は実施している。	停電時などの災害に対しては発電機を備え、あらゆる災害が想定して備蓄品や水などを準備しています。	火災避難訓練の実施、若しくは机上での訓練、シミュレーションを行うことで利用者の安心・安全に繋げる事を期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のこだわりを尊重し、尊厳のある生活を営むことができるように支援している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し畏まった敬語ではなく丁寧語で接し、節度をわきまえた距離感を大事にするよう指導しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから希望やこだわりを確認し、希望が実現できるように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日ごろから1人1人との関わりを持ち、各個人のペースに合った、画一的ではないケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師免許がある職員による散髪を実施したり、馴染みの病室への移動支援、町内の美容院の訪問などを受け、その人らしさを損なわないような支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は調理されたものの提供となっているが、月に何度かは、各季節の旬の物を提供したり、誕生月には外部のお店でお寿司やオーダブルを注文したりと、季節などを感じてもらえるように工夫している。調理の参加については、毎回ではないが、出来ることをお願いしている。下膳については全入居者が参加してくれている。	配食サービスを利用しており、ご飯と汁物は職員が調理して提供しています。利用者の食べられないものや好みに合わなかった物は変更して貰っています。行事食や誕生日には本人の希望を聞き出前など趣向を変えて楽しい食事になるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力機関の意見を聞きながら、それぞれの適量を理解して食事や水分を提供している。また、咀嚼や嚥下、便の状態から食事形態にも配慮して提供している。入浴時には毎回体重測定を行い、状態の変化に気付けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前にご本人の状況に合わせて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、1人1人のパターンに合わせ支援が出来るように努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行い出来るだけトイレでの排泄に取り組んでいます。夜間、ポータブルトイレを使用される方もおり利用者の安全に配慮した対応を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸に働きかける食べ物を定期的に提供したりできるだけ運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフの配置に余裕がないため、夜間や夕方の方の入浴には対応できていない。しかし、基本的な曜日は設定しているが、日中であれば要望に対応している。	利用者の希望や体調を考慮し週2回ほど入浴出来るよう支援しています。心地よくリラックスするよう心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースの消灯時間は決めているが、居室内での生活には個人の生活サイクルを尊重している。健康上影響のない範囲で就寝時間も個人に任せている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が受診の付き添いをしているので、そこで確認した服薬状況(薬の変更や症状の変化等)による新規の処方)をまとめ、各職員に周知・共有できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が身の回りの事すべて行うのではなく、各個人が出来ることを見極め、居室の掃除など出来ることに関しては実践していただいている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や役場への用事、理美容室への外出は職員が移動や付き添いの支援を行っている。	天気の良い日は公園へ花見に行ったり、友人との食事、美容室や職員と一緒に買い物に出掛け気分転換を図っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得て、金銭管理が出来る方については、本人に金銭管理をしていただいている。GH内にある自動販売機や、買い物への支払いについても自身で出来る方については、そのようにできるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には携帯電話を所持し、自由に電話をしている。また、GHの電話についても使用は可能で、子機もあるため自室での電話も可能となっている。手紙については、本人の希望があれば代筆、代読の支援も行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、音、職員の話し声など入居者が不快にならないように配慮し、居心地の良い空間づくりに努めている。リビングには新聞を置いたり、季節に合わせた飾りつけを行い、季節が感じられる工夫もしている。	共用空間には大きな窓から暖かな陽ざしが射し込み穏やかに雰囲気が増えます。季節ごとや行事の飾りを職員と一緒に作成し飾りつけを行っています。今年度はエアコンが設置され過ごしやす環境となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性などに気を使い、それぞれの居場所に配慮している。また、職員の間から外れる場所にもソファを置き、気兼ねなく話せる工夫もしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族に説明し馴染みのある使い慣れたものを使用していただき、自宅での環境を再現できるように努めている。	居室には使い慣れたベットや筆筒などが持ち込まれています。携帯電話で家族と連絡を取るなど今までの生活習慣を継続して貰えるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は各入居者の身体能力を把握して、安全で自立した生活が送れるように、リビング、居室、廊下、トイレ等の環境作りに配慮している。 身体能力に変化が生じた場合にはその情報も共有し、必要に応じて改善できるように努めている。		